

1 だから、くらげが好きなんだっ！

まず、この文を読んでください。

●例文1A「大好物はくらげ」

私の大好物は、くらげです。

つるん、ぬるんとした舌ざわりにますしびれます。次に、ほのかな潮の香りがのどから鼻に上がってきて楽しめます。す。のどごしときたら、これはもう絶品。他に比べようもありません。

くらげ以上の美味はありません。

この文は何を主張しようとしているのでしょうか。

書いてください。

くらげは最高においしい

はい、解答例です。

「くらげは最高においしい」……大体あっていましたか。

では、みなさんは、どうやってこの文章の「主張」を見つけたのでしょうか。実は、難しい入試問題も、分厚い本も、皆さんは同じように理解することができます。ただ、それらは長くて複雑な姿かたちをしているので、ちょっと見るとわかりにくいだけなのです。

ではもう一度、先ほどの文で、なぜ・どのように「主張」をつかんだのか思い出してください。思い出して、次の空欄をうめてみましょう。正解かどうかにはあまりこだわらずに、文章を見直してもいいので、とにかく何か書き込んでください。

主張をつかんだ理由

①それが文章の「はじめと終わり」の間に書いてあるから

②それが文章で「繰り返し返」「し書かれていたから

③その他（あれば）「それが最も抽象的な部分だ」から

はい、では解答例です。

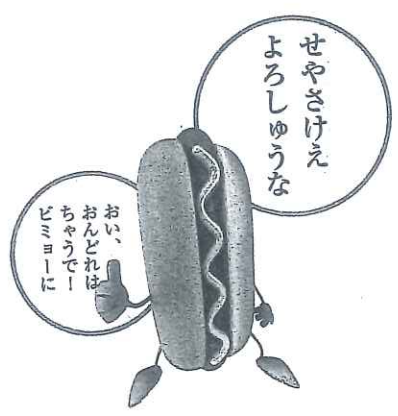
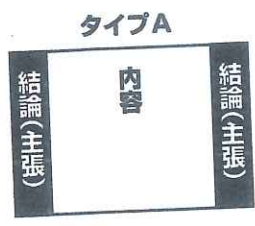
早よしねー

早くしろー

福井県の越前水母さん

※よい子はやたらに食べてはいけません。

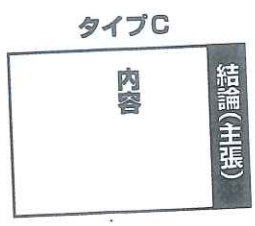
では、最初と最後ではどちらがより重要だと思いますか？ 次の



形です。の主張(結論)が書かれているわけですね。サンドイッチのような形で。では理由①です。「結論」(結||結び・論||意見)というくらいなので、文章の大切なことは、最後におかれます。ですから、無意識のうちに「終わりの部分」に注意を向けた人がいたはず。正しい読み方です。また、「はじめ」に大切なことを書いてしまう方法もよく使われます。今回の例文1Aは、最初と最後にほぼ同じ意味の主張(結論)が書かれているわけですね。サンドイッチのような

- ① 文章の「(はじめと) 終わり」のところに書いてあるから
 - ② 文章で「繰り返」し書かれていたから
 - ③ その他・それが最も抽象的な部分だから
- どうでしたか。だいたい同じなら、言い方はちがつてかまいません。「その他」は後で説明します。

どちらが多く使われるでしょう。多いほうに○をつけてください。



どうですか。やはり「最後」です。入試問題の文章も圧倒的にタイプBが多いのです。「結びの・論」だからでしょうか。これが一番自然なのです。

次に理由②について見直しましょう。

「繰り返」し書かれている——としましたが、どこに？ この場合は最初と最後、ですね。とすると、①と同じではありませんか。わざわざ番号を変えた意味があるのか、と考えたあなたは、かなり鋭い頭脳の持ち主ですね。

最初と最後以外のサンドイッチの「具」の部分を読んでください。どうですか、くらげをほめていますか。思い切りほめていますね。そう見ると、同じことを言っている。と、すると、この文章はどこもかしこも、同じ内容をことばを変えて書いているだけ、ともいえ

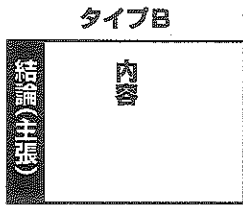
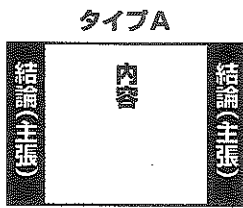
るのです。

次のようなことに気づいた人はいますか？ —— 「サンドイッチの具」の部分、「具体例」っていいませんか？

おお、鋭い。そのとおり。「くらげは最高」という主張を、具体的な例をあげて説明している、といえます。そう考えると具体例も、結論（主張）と同じことを繰り返していることがわかります。

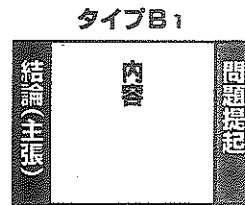
実は、高校入試や大学入試に何回も何回も使われる「説明的文章」なるもの。それからみなさんが一生でずっとずっと繰り返し読むことになるものすごい量の文章。これらは、すべて「同じ基本構造」で書かれているのです。

その「基本構造」はたったの3種類しかありません。これを入試問題にしばらく、先ほどのタイプAとB、2種類しかないのです。



先ほども書きましたが、より多いのは《タイプB》です。

もう少し詳しく説明します。入試に一番多く見られる文章の基本構造は、次のようなものです。



最初に問題提起、次に具体例による説明、最後に結論（主張）です。「くらげ」の文章をこの型に直してみます。

●例文1B 「好物はくらげ」

くらげがどんなに美味しいものか、知っている人も経験した人も少ないのではないだろうか。

つるん、ぬるんとした舌ざわりにまずしびれます。次に、ほのかな潮の香りがのどから鼻に上がってきて楽しめます。のどごしときたら、これはもう絶品。他に比べようもありません。

くらげ以上の美味はありません。

これで、図のとおり「問題提起」「具体的説明」「結論」というパターンになりましたね。

では、せつかくのチャンスですから、この構造をイメージしてもらい、同時に、一生使うとても大切なことばを教えます。

「抽象」

はい、左の欄に、練習のために、ていねいに書き写してください。そして、何と読むのか、読みも書いてください。

漢字

抽象

ここに読み

ちゅうしょう

読めましたか？

読み方は「ちゅうしょう」です。これは先ほどの

「具体例」の「具体」

の反対の意味のことばです（対義語）。絶対におぼえてください。

実際には、次のように用いられます。

抽象的 ⇄ 具体的

なんとなくわかりますか？

わかりにくければ、次のようにイメージしてください。

具体的な文…内容が細かい・狭い・小さい・くつきりはつきり

抽象的な文…内容が大まか・広い・大きい・ぼんやり

より具体的な文



より抽象的な文

鮪・鰹・鰯・鮭…



魚

韓国・カナダ・ロシア…



国家

正方形・だ円・台形…



平面図形

西高・本町中・南部小…



学校

より具体的な文 ①

家の前の道をはさんですぐ南側、玄関から10メートル先に県立

川北高校の正門がある。



より抽象的な文 ①

家の近くに学校がある。

より具体的な文 ②

くらげのぬるん、つるんとした舌ざわりは海産物では最高である。



より抽象的な文 ②

くらげは最高においしい。



わかりましたね。では、もう一度、「くらげ」の文章をどうぞ。

●例文1C

タイトル「大好物はくらげ」

問題提起

くらげがどんなに美味しいものか、知っている人も経験した人も少ないのではないのでしょうか。

具体例①

つるん、ぬるんとした舌ざわりにまずしびれます。

具体例②

次に、ほのかな潮の香りがのどから鼻に上がってきて楽しめます。

具体例③

のどごしときたら、これはもう絶品。他に比べようもありません。

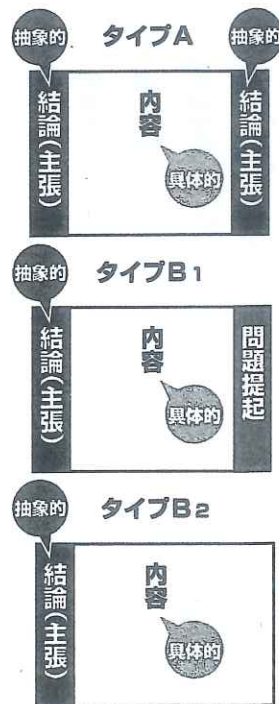
結論(主張)

くらげ以上の美味はありません。

「もうくらげはたくさん」ですか？ そうでしょうね。

では、最後にもう一度、「基本構造」をおさらいします。

みなさんが入試で読む文章のほとんどは、次の3つのどれかと
いってまちがいません。



で、ついでにもう一つ。一番はじめに「タイトル」がありますね
(ほとんどの入試問題では作者名とあわせて最後に書きそえてあります)。

この文章のタイトル「大好物はくらげ」は、本文のどの部分に似
ていますか？

次の三つの中から「タイトル・大好物はくらげ」に一番近い内容
のものを選び、○をつけましょう。

問題提起

・ 具体例

・ 結論

そう、「結論」です。タイトルがどの部分に似ているかは、文章によつてこととなります。でも、タイトルを見れば、何が言いたいのか一目でわかってしまうこともあるのです。これも大切なポイントです（内容とまるで無関係なタイトルもあります。その場合は「残念でした……」ということですが）。

これで見なさんは、入試によくある「筆者の主張」に関する問題をこれまでよりずっと楽に正答できるようになりました。

2 たくあんと文化と文明の関係って？

次の例文はもう少しまじめなものです。

●例文2A

「文化とは何だろう」

文化と文明はよく似たことばだ。しかし、よく使われるだけに区別がつきにくく、まぎらわしい。どちらがうのだろうか。

ある小説家が、次のような例をあげていた。

アメリカのレストランが「たくあん漬け」を作った。材料も手順も完璧。試食した日本人は「うん、おいしい。たくあんの味だ」とほめちぎった。成功である。ところが、テーブルで大失敗が起こった。たくあんが、丸い純白の皿に、まるでソーセージかハム、または果物の薄切りのように、きれいに、円形に並べられていたのだ。日本人はみんな食欲をなくしてしまったという。

このエピソードにおける「材料と手順」が文明であり、「食欲」が文化だというのである。

文明は設計図のようなもので、文字さえ通じれば、世界中どこでも通じる。たくあんを作ることができる。これは技術といつてもいい。

一方の文化は、身勝手な好みのようなもので、皿や盛り付けが変わっただけで、同じ味のものを、もう食べたくなると言い出すのだ。

文明は世界中どこにでも持つていけるが、文化はその時のその場所でしか通じないもののようなのである。つまり、文化は「わがままの集合」といえるものなのだ。

そのてしよ

いちびりよるのお

その皿……みぎけてるな

——奈良県の般若坊さん

